

子どもたちの今と未来を守る

なごや子ども**応援**委員会

～SC・SSWをはじめとした
4職種による**チーム**としての活動～



なごや子ども応援委員会



なごや子ども応援委員会

西ブロック スクールカウンセラー
名東ブロック スクールソーシャルワーカー

前田 悦子
山内 美砂

子ども応援委員会の誕生



なごや子ども応援委員会

教員以外
44%

- アメリカの学校制度を参考とした専門職の常勤配置による学校支援 ※河村市長のLA訪問がきっかけ
- スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールアドバイザー（SA）、スクールポリス（SP）の4職種で構成
チームとしての活動による、子どもへの幅広い対応
- こうした専門職員が常に学校に居ることによる早期発見・未然防止の重視と教員のエンパワーメント

子ども応援委員会スタッフ



スクール カウンセラー（常勤）

- 心理の専門的知識・経験を活かし、学校生活全般への援助
- 児童生徒、**保護者**、教職員への相談対応
- 必要に応じて**医療機関**に

スクール ソーシャルワーカー（常勤）

- 福祉の専門的知識・経験を活かし、児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- **関係機関（区役所・児相・地域役員等）**との連携、調整



学校現場を支援

スクール アドバイザー（常勤）

- 学校に対する**外部からの**意見や要望への対応
- **地域や家庭**との連絡調整



スクールポリス（非常勤）

- 学校内外における見守り活動
- 必要に応じた**警察**との連携



※それぞれのスタッフが外部機関と連携し、支援の輪を広げている！

子ども応援委員会の設置状況



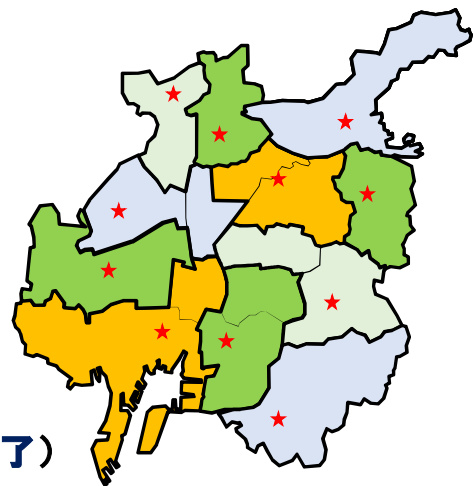
本市の学校の現状

小学校：261校 児童数 約11万人
中学校：110校 生徒数 約5万人

16の行政区を基本に11ブロックに分け
11中学校（設置校）に応援委員会を配置
設置校を中心にブロックの小中学校を支援
（各ブロック30～40校）



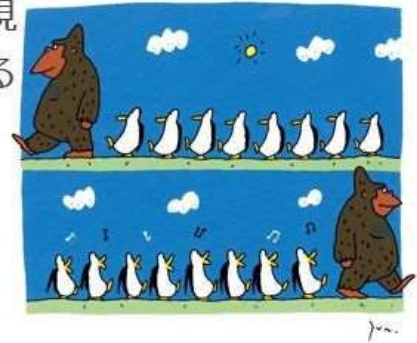
全中学校に常勤のSCを配置する計画
今年度 36校に配置（全体の1/3に配置完了）



子ども応援委員会におけるSCの活動

①SCとは

- ▶ スクールカウンセラーとは？
- ▶ 心理の専門家の視点による見立て
 - － 教師の視点と専門家の視点で立体視
学校と連携し、児童生徒とつながる
- ▶ 誰にでもある心の悩み
 - － 日常的な見守りが大切



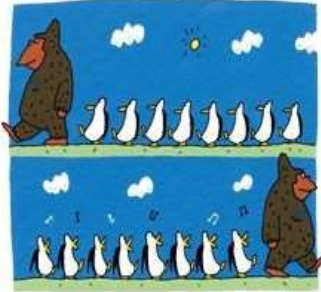
子ども応援委員会におけるSCの活動

②常勤SCならではの活動

- ▶ 未然防止
 - － 授業や特別活動、課外活動時などの児童生徒の見守り
 - － ストレスマネジメントなどの授業支援
 - － いじめ予防等につながる生徒会活動等への支援
- ▶ 教育の最前線の教員を支援
 - － 学校生活アンケートの分析
 - － 教員との日常的な情報共有
- ▶ 「針路」探しの応援
 - － 常に学校にいて生徒が気軽に相談できる
 - － 学校と連携して、児童生徒とつながる



子ども応援委員会における スクールソーシャルワーカーの活動 ①SSWとは



- スクールソーシャルワークとは？
- なぜスクールソーシャルワーカーが必要か？
—子どもの貧困、居所不明、児童虐待、非行…
- スクールソーシャルワーカーの役割
 - ・子どもの背景(家庭環境・家族の歴史など)に視点
 - ・関係の機関・団体のネットワークの構築、調整
 - ・制度の活用
 - ・ケース会議(校内・関係機関連携)

子ども応援委員会におけるSSWの活動

②具体的な支援—子どもの貧困への支援

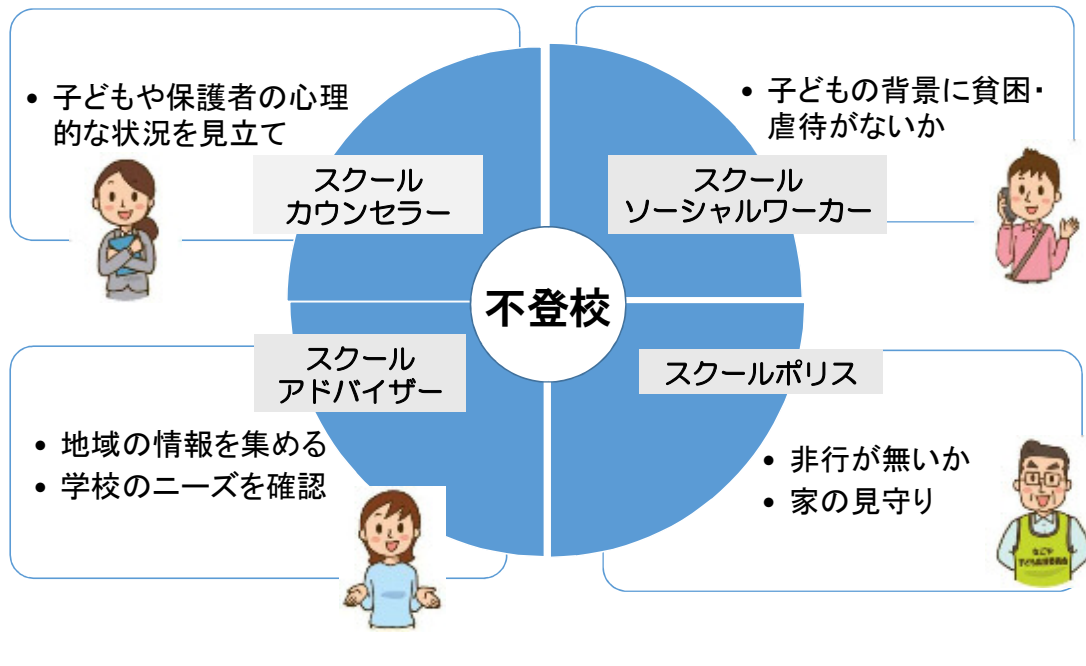


- 子どもの貧困への支援
 - ・子どもの貧困率 16.3% 6人に1人 —見えにくさ
 - ・経済的な貧困だけではなく、つながりの貧困 —孤立
 - ・必要な人に必要な支援が届いていない

<事例>

- ①保護者に寄り添い、福祉的な支援につなげる
- ②関係機関でケース会議を開き、役割分担をし針路を支援

子ども応援委員会はチームで対応して解決する



子ども応援委員会から広がる子どもたちの「針路」 応援の輪

